

## 第44回 かなえ医薬振興財団 助成金受賞者が決定！

かなえ医薬振興財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、若手研究者を育成するために1970年に設立され、これまでに全国1,570名の研究者に研究助成金および海外留学助成金を提供してまいりました。第44回となる2015年度は、10月16日の選考委員会及び10月27日の理事会を経て、受賞者60名が決定されました。今年の研究助成金が40名、海外留学助成金が15名、アジア・オセアニア交流研究助成金が5名で、総額6,000万円の助成金を交付します。（受賞者一覧は3-4頁参照）



10月16日開催の選考委員会の様子

### ○分野別の応募状況

#### ◇研究助成

分野	応募数
臨床医学1	56
臨床医学2	36
臨床医学3	76
臨床医学4	60
臨床医学5	65
基礎医学1	62
基礎医学2	82
基礎医学3	86
基礎医学4	53
合計	576

#### ◇海外留学助成

分野	応募数
臨床医学1	15
臨床医学2	16
臨床医学3	11
臨床医学4	11
臨床医学5	12
基礎医学1	28
基礎医学2	11
基礎医学3	23
基礎医学4	2
合計	129



10月27日開催の理事会の様子

◇アジア・オセアニア交流研究助成  
 応募数 20  
 応募数合計：725 件

### ●選考委員長よりひとこと

選考委員長 寺内 康夫（横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授）



今年度は、応募領域を臨床医学5分野、基礎医学4分野とアジア・オセアニア交流研究1分野の合計10分野で公募しました。臨床医学分野は1) 神経/脳、2) 循環器、3) 消化器/代謝・内分泌、4) 呼吸器/免疫・アレルギー、5) 血液/他臓器、基礎医学分野を1) 癌/ゲノム、2) 免疫/炎症/感染、3) 神経/分化/再生、4) 薬理/薬物動態/創薬とアジア・オセアニア交流は老年医学/再生医学/感染症/疫学/医療機器/漢方/その他です。今回の応募も、全国の大学、研究所、病院等100施設以上から、研究助成576報、海外留学助成129報、アジア・オセアニア交流研究助成20報の応募がありました。厳正な審査の結果、研究助成40名、海外留学助成15名、アジア・オセアニア

交流研究助成5名が決定いたしました。研究助成14.4倍、海外留学助成8.6倍、交流研究助成4.0倍の厳しい競争の中で受賞された先生方に、心よりお喜びを申し上げます。この受賞を、先生方の今後の研究活動により一層の励みとし、生命科学分野の進歩発展にさらに貢献されることを期待しております。

## ●研究助成金受賞者 喜びの声

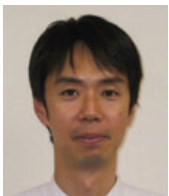


### 野村 征太郎 (東京大学先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野)

この度は第44回かなえ医薬振興財団研究助成に採択していただき、関係者の方々に心より御礼申し上げます。個体は、臓器・細胞・分子・遺伝子、それぞれのレベルの要素が有機的に繋がるシステムを構築しています。私は助成をフルに活用させていただき、このシステムを解き明かすことによって、癌と並んで予後の悪い心不全という病態を深く理解し、臨床現場に大きく貢献する本質的な診断技術・治療方法を構築したいと考えています。

### 樫村 敦詩 (京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学)

この度は第44回かなえ医薬振興財団助成金にご採択いただき、大変光栄に存じます。私は、特に全身化学療法の発展が待たれる肝癌についての研究を進めてきました。肝癌は炎症や代謝が深く関与し、とても多様でユニークな癌です。増加する肥満・メタボリック症候群の影響も視野に入れながら、肝癌癌・進展のメカニズムを解明したいと考えております。今回の受賞を励みに、治療の発展に貢献する研究成果が得られるよう一層努力して参ります。



### 三村 尚也 (千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部)

この度は第44回かなえ医薬振興財団研究助成金にご採択頂きまして、大変光栄に存じ、財団ならびに選考委員会の先生方には心より御礼申し上げます。私は難治性血液腫瘍である多発性骨髄腫に対する新たな分子標的療法の開発を目指して、特にヒストン修飾に着目した研究を行っております。本疾患の予後向上に貢献する研究成果を得るために、今回の受賞を励みとして、より一層の精進を重ねて参りたいと存じます。

### 滝澤 仁 (熊本大学国際先端医学研究拠点施設 国際先端医学1)

この度は、貴財団の研究助成を賜り、誠に光栄に存じます。また、ご推薦いただきました熊本大学国際先端医学研究拠点長の須田年生先生をはじめ、昨年度まで共に本研究を推進してきましたスイスチューリッヒ大学病院血液内科の皆様にも心より御礼申し上げます。今年度より新たに研究室を立ち上げ、感染、老化、炎症などの造血ストレスによる造血幹細胞機能制御を中心にプロジェクトを進めております。この受賞を励みに、より一層研究に邁進し、幹細胞生物学や再生医療の発展に貢献していきたいと思っております。



### 秋田 英万 (北海道大学大学院薬学研究院 薬剤分子設計学)

この度は、44年もの歴史があるかなえ医薬振興財団研究助成を賜り、大変光栄に感じております。財団の関係者、審査員の皆様に心より感謝申し上げます。ドラッグデリバリー技術の開発において、組織標的化だけでなく、血管内皮細胞に取り込まれた後の動態を総合的に評価することが重要な課題となります。今回の受賞は、1年前から温めていたアイデアを具現化する第一歩を踏み出せる機会となると思っております。今後、より一層研究に邁進し、新たな創剤を世界に発信していきたいと思っております。

## ●海外留学助成金受賞者 喜びの声

### 平野 有沙 (カリフォルニア大学サンフランシスコ校)

この度は、第44回かなえ医薬振興財団海外留学助成金を賜り、心より御礼申し上げます。私は、ヒト順遺伝学の手法を用いて睡眠障害の一つである睡眠相前進症候群の発症メカニズムを研究しています。適切な睡眠・覚醒サイクルを維持する分子機構を明らかにすることは、24時間型社会と呼ばれる現代社会において特に重要な課題となっています。今回の受賞を励みにして社会に還元できる成果を挙げられるよう、より一層、研究に邁進する所存です。



●アジア・オセアニア交流研究助成金受賞者 喜びの声



南 彰 (静岡県立大学大学院薬学研究院 生化学講座)

この度は荣誉ある貴財団の研究助成に採択していただき誠にありがとうございました。また、ご推薦をいただきました当講座の鈴木隆教授と共同研究者の愛知医科大学医学部 若槻明彦教授、松下宏講師、マレーシアマラヤ大学 Vikineswary Sabaratnam 教授に心より感謝申し上げます。我々は更年期における精神神経症状の改善をテーマに共同研究を進めて参りました。本助成はこれまでの研究を飛躍的に発展させる好機であり、女性医学に少しでも貢献できるよう全力で取り組みたいと思います。

●第44回(平成27年度)助成金受賞者 一覧

研究助成金

氏名	所属	研究課題
<b>臨床医学1：神経／脳</b>		
飯田 剛	慶應義塾大学大学院医学研究科整形外科学教室	ヒト iPS 細胞由来神経幹細胞の移植前造腫瘍性評価システムの確立
飯田 円	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学	運動ニューロン疾患の時空間的分子シグナル異常を標的とした治療法開発
田宮 寛之	東京大学医学部附属病院 老年病科	加齢に伴う概日リズム変化の解明と新たな予防戦略の探索
佐光 亘	徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床神経科学分野	脳機能ネットワーク解析を用いた筋萎縮性側索硬化症診断法開発
<b>臨床医学2：循環器</b>		
野村 征太郎	東京大学先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス分野	時空間的1細胞遺伝子発現解析による心不全における心臓細胞挙動の一斉同定
村川 智一	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学	新規マイトファジーレセプター分子 Bcl2-L-13 の心臓における機能解析
原 哲也	神戸大学大学院医学研究科循環器内科学分野	新規の血管内皮接着因子 JCAD (Junctional protein associated with coronary artery disease) の深部静脈血栓症に及ぼす影響の解明
<b>臨床医学3：消化器／代謝・内分泌</b>		
株村 敦詩	京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学	肝病態・肝癌の発生および進展における多機能分子 p62 の役割
加藤 弘	北里大学医学部 外科学	癌リンパ行性転移機序における免疫担当細胞の意義と臨床応用
高本 偉碩	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	2型糖尿病疾患感受性遺伝子の機能解析
清水 逸平	新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学 先進老化制御学講座	褐色アディポカインを介した非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) の肝臓線維化促進機構の解明
藏重 淳二	熊本大学大学院生命科学研究部消化器外科学	切除不能進行胃癌の化学療法感受性を規定する新規バイオマーカーの検索 ～ Conversion therapy が可能な症例予測を目指して～
<b>臨床医学4：呼吸器／免疫・アレルギー</b>		
本田 哲也	京都大学大学院医学研究科 AK プロジェクト・皮膚科	免疫反応起点としての皮膚の新たな役割
竹内 伸司	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科	BIM 遺伝子多型に起因する次世代型 EGFR-TKI 耐性克服治療の開発
桐野 洋平	横浜市立大学附属病院 リウマチ血液感染症内科学	自己炎症性疾患における遺伝学的な病態解明の試み
後藤 慎平	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科	iPS 細胞を用いたヒト II 型肺胞上皮細胞の分化増殖の機序の解明と創薬への応用
<b>臨床医学5：血液／他臓器</b>		
三村 尚也	千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部	多発性骨髄腫に対するヒストン修飾を介した新たな治療戦略
松本 一宏	慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室	EZH2 活性に着目した膀胱癌再発に対するエピジェネティック治療
福嶋 葉子	大阪大学大学院医学系研究科 視覚情報制御学	持続性細胞内シグナル活性異常を標的とした未熟児網膜症の新規治療法の開発
宮垣 朝光	東京大学大学院医学系研究科 皮膚科学	皮膚悪性リンパ腫の病態形成の免疫学的解析と新規治療法の開発
<b>基礎医学1：癌／ゲノム</b>		
村川 泰裕	理化学研究所予防医療・診断技術開発プログラム	活性エンハンサーの高感度ゲノムワイド同定
太田 信哉	高知大学教育研究部先端医療学推進センター	癌化を抑制する新規染色体タンパク質の機能解析
丸山 玲緒	札幌医科大学医学部分子生物学講座	トリプルネガティブ乳癌の革新的治療戦略の構築
日野 信次朗	熊本大学発生医学研究所 細胞医学分野	癌代謝リプログラミングを司るエピゲノム制御機構の解明とその応用
<b>基礎医学2：免疫／炎症／感染</b>		
滝澤 仁	熊本大学国際先端医学研究拠点施設 国際先端医学1	慢性炎症に起因した造血幹細胞の悪性転換
遠藤 裕介	千葉大学千葉大学大学院医学研究院 免疫発生学	肥満病態誘導性の喘息における病原性記憶 Th2 細胞の役割
一戸 猛志	東京大学医学研究所感染症国際研究センター感染制御系ウイルス学分野	インフルエンザウイルス NS1 タンパク質による NLRP3 inflammasome の抑制機構の解析
馬 知秀	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫寄生虫学分野	細胞内寄生虫トキソプラズマ原虫の新規病原性因子の同定と作用機序の解明
長嶋 茂雄	自治医科大学医学部 感染・免疫学講座ウイルス学部門	E 型肝炎ウイルスの受容体の同定と細胞侵入機構の解明
中司 寛子	慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室	制御性 T 細胞におけるエピジェネティック制御因子の役割
<b>基礎医学3：神経／分化／再生</b>		
佐々木 拓哉	東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学教室	グリア細胞から始まる虚血性脳機能変容の実態解明
坂口 昌徳	筑波大学国際統合睡眠神経科学研究機構 坂口研究室	中枢神経再生のための、新生ニューロンの既存回路への統合機構の解明
木戸屋 浩康	大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野	革新的な血管再生療法の開発を目指した、静脈血管の分化メカニズムの解明

基礎医学3；神経／分化／再生		
森 雅樹	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学	小児の成長ポテンシャルを活用した成長再生医療の確立
山口 良文	東京大学大学院薬学系研究科 遺伝学教室	哺乳類の冬眠における時計遺伝子群の発現動態とその意義の解明
鈴木 教郎	東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター 酸素医学コアセンター 新医学領域創生分野	赤血球増殖因子エリスロポエチンを産生する細胞の培養系樹立と性状解析
基礎医学4；薬理／薬物動態／創薬		
秋田 英万	北海道大学大学院薬学研究院 薬剤分子設計学研究室	in vivo 血管内皮における動態を制御するナノ DDS 基盤の開発
西川 恵三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫細胞生物学	破骨細胞を標的としたエビゲノム創薬を実現するための基礎研究
降幡 知巳	千葉大学大学院薬学研究院 薬物学研究室	薬物脳送達を飛躍的に向上させる新規脳指向性イムノリボソーム開発
浦田 秀造	長崎大学熱帯医学研究所 新興感染症学分野	全てのエボラウイルス種に対して抗ウイルス作用を保有するエボラウイルス VP40 タンパク質二量体化阻害化合物の探索

## 海外留学助成金

氏名	申請時所属／留学先	研究課題
臨床医学1；神経／脳		
平山 雅敏	慶應義塾大学医学部 眼科学教室／Salk Institute for Biological Studies	中枢神経機能制御による概日時計再建
八木 拓也	Washington University in St Louis	中脳アストロサイト由来神経栄養因子 (MANF) の受容体同定と神経保護作用メカニズムの解明
臨床医学2；循環器		
安西 淳	Center for Systems Biology, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School	急性心筋炎における Interleukin-3 の役割解明と新規治療戦略の開発
棚田 洋平	Department of Physiology and Functional Genomics, University of Florida College of Medicine	サルコメア蛋白を用いた心筋梗塞の病態解明と治療
臨床医学3；消化器／代謝・内分泌		
原田 和人	熊本大学附属病院 消化器外科学／MD Anderson Cancer Center, Department of Gastrointestinal Medical Oncology	食道癌における化学放射線療法効果予測因子の網羅的検討
臨床医学4；呼吸器／免疫・アレルギー		
前原 隆	Ragon Institute of MGH, MIT and Harvard	Clonally expanded CD4+ cytotoxic T lymphocytes in IgG4-related disease
臨床医学5		
井上 大地	東京大学医科学研究所 細胞療法分野／Memorial Sloan Kettering Cancer Center	MDS 幹細胞における新規エピジェネティックパスウェイの解明と治療応用
基礎医学1；癌／ゲノム		
平野 有沙	Department of Neurology, University of California, San Francisco	ヒト睡眠位相前進症候群の原因遺伝子変異 CRY2-A260T の機能解析
小藤 智史	University of Cincinnati	GTP エネルギー代謝に着目した癌検査及び治療技術の開発
島 星治	東京大学大学院薬学系研究科 生理化学教室／Zentrum für Molekulare Biologie der Universität Heidelberg	中心体を単一の微小管形成中心として規定する新規分子機構の解明とがん細胞浸潤能における生理的意義の検証
基礎医学2；免疫／炎症／感染		
山野 友義	Institute for Immunology, University of Munich	胸腺で免疫グロブリンのクラススイッチをした B 細胞の役割の解明
基礎医学3；神経／分化／再生		
増田 隆博	フライブルク大学病院 神経病理学研究所	中枢神経系組織におけるミクログリア細胞の不均一性
中村 哲也	University of Chicago, Organismal Biology and Anatomy	エイの発生における各組織の相互認識と融合メカニズムの解明
山下 直也	Department of Biology, Johns Hopkins University	Axonal targeting of Trk receptors via transcytosis
基礎医学4；薬理／薬物動態／創薬		
安藤 康史	国立循環器病研究センター 細胞生物学部／Uppsala University, Dept. Immunology, Genetics and Pathology, Rudbeck Laboratory.	脳血管性疾患発症と病態進行に関わる血管周細胞の機能の解明と治療法の開発

## アジア・オセアニア交流研究助成金

氏名	所属	研究課題
アジア・オセアニア交流研究；老年医学／再生医学／感染症／疫学／医療機器／漢方／その他		
南 彰	静岡県立大学大学院薬学研究院 生化学講座	更年期の精神神経症状改善に特化した高い血液脳関門透過性を示すホルモン補充療法代替薬の探索
山崎 寛之	東北薬科大学薬学部 天然物化学教室	インドネシア北スラウェシ州に棲息する海洋生物を資源とした生物活性物質の探索
石井 優	大阪大学大学院医学系研究科 免疫細胞生物学	蛍光生体イメージングを駆使した新規の経皮ワクチン評価系の確立
鈴木 穰	東京大学新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻	次世代シーケンサーを用いたマラリア原虫のシングルセルトランスクリプトーム解析
小瀧 将裕	神戸大学大学院保健学研究科 国際保健学領域 感染症対策分野	インドネシア国・カリマンタン島における蚊媒介性ウイルスの分子疫学

## 発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局  
〒163-1488  
東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ株式会社内  
Tel：03-6301-3090 FAX：03-6301-3094  
E-mail：kanae.zaidan@sanofi.com  
URL：http://www.kanae-zaidan.com/

### ☆ご協力をお願いします

このニュースレターは、歴代受賞者及び応募関連領域の教室宛を中心に約 2700 部発行しております。  
送付先のご所属等に変更がございましたら、登録情報を更新いたします。お手数ですが e-mail 等でご連絡下さいませよう宜しくお願い申し上げます。なお、2013 年（第 42 回）以降の受賞者の皆様はマイページ上でご自身で更新できますのでご利用下さい。